

## 還暦起業のススメ

東京商工リサーチの調査では2024年の新設法人は15万3,938社（前年比0.3%増）で、統計を開始した2008年以降で過去最多を更新した。政府や自治体、金融機関などは、起業・創業やスタートアップ支援を加速していることが奏功している。中でも起業者の年齢が60代以上の割合は18.6%と初めて18%台となった。60代以上が存在感を放ち始めている。起業というと若者のイメージがあるが、長年会社の指示命令に従っていた人は還暦を過ぎたら解放されたいという気持ちもあるのであろう。かくいう私も昨年還暦を迎え37年間の会社員生活にピリオドを打ち、今年1月から起業した。住宅ローンも完済し、子供も就職の目途が立ったことが独立を決意した理由である。これまで家族のためと必死に働いてきたが、これからは自分自身や社会のために働きたいと考えている。

しかしながら、慣れない環境に身を置くことを躊躇する人も散見され、定年後は再雇用を選択する人が多数派だ。何から始めたらよいか、わからないのも当然だ。そんな中、私が起業の際お世話になった銀座セカンドライフ（東京都中央区）は、創業支援や都内にインキュベーション施設を数多く持ち、異業種交流会を開催するなどサービスが充実している。私も同世代のシニアの活動に大いに刺激を受けている。片桐実央社長は「より良いセカンドライフのために早くから考える人が増えた」と言う。現役の時から事前にプランニングしておくことが重要だ。

還暦を過ぎてもITリテラシーが高く元気な人はとても多い。これまで培った会社員時代のスキルや人脈をフル活用し、自分が本当にやりたかったことを愚直に求めている。実際に会った方には歴史ある建造物の保存活動や地域の名産品を国内外にPRする方など多岐にわたる。目がキラキラと輝いている人が多い印象だ。還暦を迎えての起業はリスクを伴うことも多いが、そもそも予測可能な人生はつまらない。人生の第4コーナーを迎えた今、新たな挑戦を始めてみるのも悪くない。